

審判上の確認事項

大会審判委員長

1 テクニカルタイムアウトについて

- (1) 「テクニカルタイムアウト（以下TTO）」は、選手及びスタッフ（小学生）の健康観察と安全管理を目的とする。このため、選手はベンチ横のフリーゾーンに位置し、ベンチスタッフは選手が給水や汗拭きができる環境を整えるとともに、選手に給水を促し、健康状態を観察すること。
- (2) ベンチスタッフ（大人）が選手に話しかける場合には、選手の位置する場所で行うこと。
選手をベンチ前に呼び寄せる行為は禁止する。ベンチスタッフが選手に話しかけるのは、健康観察のためのものであり、プレーの指示ではない。
- (3) TTOの間、控え選手を含めた選手は、給水を優先することとし、モップ掛けやウォームアップは行わないこと。なお、モップをかける場合は、ベンチスタッフ（大人）であれば行うことができる。
- (4) 第1、第2セットでは、リードしているチームが11点に達したとき、第3セットでは、リードしているチームが8点に達し、コートチェンジしたときに適用する。デュースが続く場合、第1、第2セットでは、両チームが31点に達したときに適用し、その後は両チームが10点ずつ積み重ねたときに適用する。また、第3セットでは、両チームが21点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねたときに適用する。

2 中断の要求について

- (1) タイムアウトの要求は、レフェリーに対しハンドシグナルを明確に示すこと。
- (2) 選手交代を要求する際は、選手交代ゾーン内に確実に入るよう指導すること。
- (3) 複数の選手交代を要求する際は、同時に（間を空けず連なって）選手交代ゾーンへ入るよう選手に指導すること。
- (4) レフェリーに靴紐を結ぶことを申し出る行為は、ルール上の遅延行為にあたるため行わないよう選手に指導すること。なお、靴紐を結ぶ場合は、試合進行の妨げとならぬよう、ボールデット間に速やかに結ぶこと。

3 コートワイピングについて

- (1) チームは、コートに入る複数の選手にワイピング用のタオル等を携行させ、床が汗等で濡れた場合は、先ずコート内の選手が拭くように指導しておくこと。
- (2) 試合中床がひどく濡れた場合であっても、ラリー間でのモップの使用は、審判の指示がある時のみとする。
- (3) チームは、試合開始前やタイムアウト中およびセット間には、コートのモップ掛けにより安全確保に努めること。

4 暴力・暴言などの行為について

- (1) ベンチスタッフ、選手及びチーム関係者によるコート内外における暴力、暴言等については厳に慎むこと。

- (2) 万一、当該行為があった場合には、ルールに則り制裁する。さらに、日本小学生バレーボール連盟コンプライアンス規程違反として処分の対象となる。

5 スコアラー及びコートオフィシャル（ラインジャッジ・点示員）について

- (1) チーム相互審判として以下のとおり行う。
- ・第1試合
各コートの第2試合の両チームで行う。
スコアラー1名・コートオフィシャル各3名
 - ・第2試合
各コートの第1試合の両チームで行う。
スコアラー1名・コートオフィシャル各3名
 - ・第3試合
各コートの第4試合の両チームで行う。
スコアラーは公認審判員・コートオフィシャル各3名
 - ・第4試合
各コートの第3試合の両チームで行う。
スコアラーは公認審判員・コートオフィシャル各3名
 - ・第5試合
各コートの第4試合の勝者両チームで行う。
スコアラーは公認審判員・コートオフィシャル各3名
- (2) スコアラーは、担当チームの責任において、スコアラーの経験があるなど、確実に任務を果たす人員を選出すること。（選手、スタッフは問わない。）
- (3) スコアラーは、青色ボールペンと短い定規を用意し、使用すること。
- (4) スコアラーに補助員として、チーム関係者を1名つけることを認める。その際、ボール拭きなどセカンドレフェリーからの依頼にも協力すること。
- (5) コートオフィシャルは、担当チームの責任において登録選手のうち任務を果たすことができる人員を選出すること。なお、登録選手が少なく、点示員が低学年になる場合に限る、その補助者としてチーム関係者がフロアーに入ることを認める。
- (6) チーム関係者は、スコアラー及びコートオフィシャルに給水ボトルを持たせ、TTO時には進んで給水するように指導しておくこと。

6 レフェリーミーティングについて

各コートの試合開始前に記録席前において、ファーストレフェリー、セカンドレフェリー、スコアラー、コートオフィシャルによるミーティングを行う。その際、必ず全員が記録席前に集合すること。